

<平成28年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県川崎市立柿生中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間間に10分の休憩時間があります。



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年11月24日 (木)
- 場 所 : 川崎市立柿生中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (41名)、3組 (41名)
- オリンピアン : 小口 貴久 先生 (リュージュ)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・小口先生から自己紹介した後、リュージュ競技を知っているか問いかけ、実際にボブスレー、リュージュ、スケルトンの滑走姿勢を生徒に体験させる。
- ・今日はオリンピックとは何か、なぜ作られたのかを知ろうと授業の目的を確認し、運動の時間は考えながら体を動かして楽しんでほしいと伝え、準備体操に移る。

3. 主運動



- ・①縄くぐり (30秒×3回戦)。2班ずつ3チームに分かれ、長縄を跳ばずにくぐる。ルールを3つ (縄を回す時に必ず床につけること、正確な数を数えること、連続して跳べなくてもよいが引っかかったり縄を跳んだら0から数えなおすこと) 決め、各回終了後、回数と工夫点を発表。
- ・②ボール陣地入れ。1人1個ボールを持ち、ステージ前のラインをスタート、反対側の壁付近に置かれたフラフープにボールを入れる。ルールを3つ設定 (30秒以内に全てのボールをフラフープに入れること、鬼役の生徒と小口先生がボールを持ってハーフラインを越えてきた生徒にタッチしたら終了、ゲーム中以外にボールを床についたらクラス全員で腕立て伏せ5回)。

4. まとめ



- ・ルールを守りながら、その中で何ができるかを考えることが大切だと伝える。次の座学の時間では、小口先生の経験を交えてオリンピックについて話すとし、運動の時間を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックについて知ろうと改めて授業の目的を伝え、オリンピックと聞いて思い浮かぶものを生徒に質問。オリンピックは世界中の人が集まるスポーツ競技大会ではあるが、オリンピックがスポーツを通じて世界平和を目指していることを、オリンピックシンボルの意味を説明しながら伝える。
- ・今日のテーマ「考える」を振り返り、オリンピックを目指す上で小口先生が実践したことを紹介し、オリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



- 1組：小口先生の話聞いて感じたオリンピックバリューを考える。
 リュージュ競技を始めたこと（エクセレンス）、仲間のアドバイスを聞き入れたこと（フレンドシップ）、仲間の活躍を嬉しく思った（リスペクト）
- 3組：自分の夢や目標に向かって実践できるオリンピックバリューについて考える。
 人の話をしっかり聞く（フレンドシップ、リスペクト）

4. まとめ



- ・改めてオリンピックバリューはオリンピックだけのものではないと話し、普段からあたりまえに実践していることがオリンピックバリューである。日ごろの生活の中で少しずつ意識して実践することが、夢の実現につながり、世界平和にもつながっている。今日の授業をきっかけに日ごろから心がけてほしいと伝える。
- ・4年後の東京2020大会に、このクラスからも出場する選手が出ることを楽しみにしていると伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成28年11月25日 (金)
- 場 所 : 川崎市立柿生中学校
- ク ラ ス : 2年2組 (41名) 、4組 (41名)
- オリンピアン : 村上 睦子 先生 (バスケットボール)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・村上先生より自己紹介した後、ルールを守り、どんなことでも全力で取り組むこと、皆で協力し合い、気持ちをひとつにすること、皆でアイデアを出し合い、チームで工夫していくことの3つを約束した後、ボールを使った準備体操を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班に分かれてシュート競争を実施。2箇所のゴール下に12枚のフェルトマーカーと3個のマーカーを設置。バスケットコートのハーフライン付近からスタートし、各マーカー位置からシュートを打ち、ゴールが決まったらマーカーを自陣に持ち帰る。フェルトマーカーは1点、マーカーは2点とし、合計点を競う。

4. まとめ



- ・作戦タイムで各班とも積極的に話し合っていたことに触れ、点数の増減はあったが結果を残すために努力した過程がすばらしいと伝える。
- ・3つの約束を守れたかを確認し、座学の授業では運動の時間や村上先生の経験を踏まえてオリンピックについて考えてみよう伝え、授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・村上先生の経験を紹介するので、一緒にオリンピックについて考えよと目的を確認し、スポーツを通して、勝った時の嬉しさ、負けた時の悔しさ、そこから学ぶことの多さ、友達を作れること等、目に見えないスポーツの力によって、平和でよりよい世界を作ると言う考えがオリンピズムであると説明する。

3. グループワーク



①運動の時間に実践できていたバリューについて考える。

シュートを決められた、全力で取り組んだ（エクセレンス）、声を掛け合いながら取り組めた、相手を思いやった、円陣を組んだ（フレンドシップ）2点シュートに挑戦した人を称える、シュートを決めた人に感謝する（リスペクト）

②日常生活で活かせるオリンピックバリューについて考える。

思ったことを口に出す、練習や勉強に一生懸命取り組む、相手を幸せにする（エクセレンス）、誰にでも優しく接する、負けても仲間を責めない、助け合い（フレンドシップ）、相手のいいところを見つけて見習う、先輩へ敬意を払う（リスペクト）

4. まとめ



・座学の時間ではオリンピックについて話したが、オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、運動の時間やみんなの普通の生活の中にも含まれていることを改めて伝え、難しく考えるのではなく、バリューを頭の片隅に置いて、普段から意識して行動してほしい。2020年に東京で開催されるオリンピックには、今日の授業のことを思い出しながら選手やボランティア、観客として様々な方法でオリンピックに携わってほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 集 合 写 真

2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

■ 2年1組



■ 2年2組



■ 2年3組



■ 2年4組



■ 証明書贈呈

